

平成24年度 第3回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成24年11月22日（木）午後2時00分～4時00分
2. 場 所 会議室棟201会議室
3. 出席状況 委員8名（欠席2名）
事務局4名（文化振興課長ほか3名）
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - (1) 開会
 - (2) 平成24年度事業の実施状況について
 - (3) 大和駅東側第4地区公益施設管理運営基本計画（案）の市民意見公募の概要について
 - (4) その他
6. 会議資料
 - ・平成24年度事業の実施状況（主要事業）
 - ・平成24年度事業の実施状況（中間報告）
 - ・大和駅東側第4地区公益施設管理運営基本計画（案）市民意見公募（パブリックコメント）の概要

【会議要旨】

- (1) 開会
- (2) 平成24年度事業の実施状況について
 - 市から、「平成24年度事業の実施状況（主要事業）」「平成24年度事業の実施状況（中間報告）」について説明。
 - 委 員：つる舞の里歴史資料館で企画展を見た。大変素晴らしい大和の悠久の文化と感じた。地域の方々や子どもたちもたくさん来場していたようだが、中央、南部の市民の来場が少ないと言っていたので、巡回展などを開催しても良いのではないかと思った。また、考古学を専門とする職員が他の部署に異動してしまっているのか、来場者に対し十分な説明ができていない部分があったように思った。制度上やむを得ないのかもしれないが、悠久の文化があって、はじめて今の文化につながっているのだから、その点を見直してもらえたらと思う。
 - 委 員：今年度、ボランティアガイドを養成するための講座を開催しており、今後は、これを受講した方々が案内をすることができると思う。また、現在、市内の歴史施設などをPRする映像を制作している。来年3月に完成する予定なので、これを活用して多くの市民を誘導できればと考えている。
 - 委 員：社会科授業の一環として、小中学校で大和の文化について学ぶ機会を設けたらどうか。また、大和の歴史をマンガにしたらどうか。
 - 委 員：大和の歴史というマンガがある。全5巻で絶版となったものもあるが、一部販売している。先土器時代から昭和の時代までの大和が記されている。
 - 会 長：社会科の授業で自分たちの住んでいる地域の歴史を学ぶカリキュラムはすでに実施されているのではないか。
 - 事務局：職員が学校に赴く出前授業は行っている。しかし、これは学校側の要請を受け

て行っているものなので、積極的に働きかけを行い、学校との連携を強化していくことは必要かもしれない。

委員：大事なことであるからといってあれもこれも授業に組み込めるものではない。指導室と協議を行いながら、学校教育と社会教育の双方で子どもたちを支えていく必要がある。また、以前、つる舞の里歴史資料館が建設される際、住民から大型バスが何台も来たらどうする気だといった反対の声があった。その時に気になったことだけで物事を考えるのではなく、中長期的な視点を持って、文化芸術を振興するためにはなにが必要なのか、どのように進めることが効果的なのかを押さえていくことが重要と考える。

委員：月見野遺跡群は考古学上重要なものであるということは、誇りに思っていることなので、学校の授業のなかで取り上げてもらい、子どもたちに知ってもらいたいと思う。

会長：私も先日、つる舞の里歴史資料館に行ってきたが、ポツンと施設があるだけで線として結びついていない、面としての広がりがないと感じた。大和市には背景にある歴史や伝統が少なく、また、歴史上の著名な人物もいないので、難しいとは思いますが、これからは、明確なコンセプトのもと、さまざまな要素をつなぎ、一つのまとまりを創っていくことが必要ではないかと感じる。

委員：文化芸術に関心を持っていない市民は多い。コミセン、市役所、駅、ショッピングセンターなど多くの人が集まるところで定期的に情報を発信してはどうか。

会長：子どもの頃に地域の意識を高める取り組みを行っていくことが効果的と考える。地域に対する意識が高ければ、高校、大学で一旦他都市に行ってしまうと、また大和に戻ってきて、コミュニティを支え、次なる人材を育てていく。大和市では、そういったことを上手く、着実に行っていくことが必要と考える。

委員：県央地域は、歴史上の著名な人物がおらず、また、川、山、海といった自然もないため、文化的な魅力が乏しい。今後、大和市が文化芸術を振興するためには、それぞれの団体が縦割りで事業展開を行うのではなく、点と点を結びつけ、積極的に発信していく取り組みが重要である。

委員：大和に昔からあるお囃子を聞きながら、市の歴史も知ることのできるようなイベントなどを開催すれば、市の歴史を楽しく学ぶことができ、また、お囃子の継承にもつながるのではないかと。大和市には数多くの団体があるのだから、さまざまな形が考えられると思う。

委員：こうした提案が市民の方からでてくるのが望ましい。国では、音楽によるまちづくり事業などの補助制度を設けているので、そういったものを活用すれば音楽家協会で開催することができると思う。

委員：音楽家協会は西洋音楽を専門とする会員が大半であるが、日本の音楽を勉強して、コラボコンサートを行うことができれば、子どもたちが聞いてくれるのかもしれない。

委員：遠野市では、昔の民話を題材に地元の音楽家によるコラボイベントなどをやっている。大和市でもそういった話があったら開催してみてもよいのではないかと。

会長：遠野市では、柳田国男の遠野物語を核としたイベントがある。大和市にもこういった軸となるものがあると良い。

委員：市民芸術祭では、「祭」をテーマにしているため、和の文化団体が多く出演し

ている。歴史、伝統的な文化を伝え、残していく活動は継続していくことが最も重要であると感じており、毎年、大和市のお囃子や獅子舞には出演してもらっている。

会 長：市民芸術祭には、どれくらいの市民が来場されているのか。

委 員：生涯学習センターホールが満席となる。お囃子、ダンスなどさまざまな舞台発表があり、皆さん興味をもって見に来てくれている。来場者は高齢の方が多い。

会 長：歌舞音曲の場合は、野外でやった方が良くかもしれない。芸術文化ホールができれば、プロムナードで開催するイベントがあっても良いと思う。

委 員：お母さんは、夏休みに子どもをどこに連れて行こうかと毎日考えている。近場でお金のかからない、子どもの勉強になるところを求めている。そういった親を対象に、見やすく、目にしたいと思える文化イベントの開催案内チラシが駅の構内などに配架されていたら嬉しく思う。

委 員：広報やまとにスタンプラリーを差し込んだらどうか。

委 員：昨年度、YAMATO ART 100にあわせてスタンプラリーを実施した。とても好評であった。今後は、市内の文化施設を紹介したイラスト入りのパンフレットを作成したいと考えている。文化振興課にも予算を出してもらえたらと思う。

委 員：計画の策定時に、中学、高校生が小学生たちを指導するといった取り組みが必要との意見があったと思うが、現在の取り組みには見当たらないように思う。

委 員：市内では小さな動きはあるが、その多くは静かな印象を受ける。その一方で中央林間手づくりマルシェには多くの人が集まり、熱気があふれている。どうしたらあのような熱気に切り替わっていくのであろうか。

委 員：中央林間マルシェは、イベント観光課が大和駅の骨董市のような賑わいを市内の各駅に創りだそうと企画したものであるが、現在は、市民の実行委員会により運営されている。事務局を設置し、地域の手づくり作家さんを中心に、商店会や自治会、飲食店も参加して中央林間という土地柄にふさわしい内容にしていこうと実行委員会で十分に話し合い、入念な準備、PRをして開催しているため、回を追うごとに出展者、来場者が増加している。このほかにも、高座渋谷ではよさこい、大和では阿波踊り、南林間ではグルメと地域ごとでさまざまなイベントが行われているが、それがつながっていけば、大和では、一年中なにかが行われていると思ってもらえるのではないかと考えている。

委 員：私なりに分析すると、大和には文化芸術の拠点がなかったのが大きな理由ではないか。相模原、海老名、座間のようなホールができると自分たちでミュージカルやオペラをやろうという声が出てくる。また、最近、ギャラリーが整備された相模原には、それまで市外で活動していた美術家、画家が戻ってきている。今後、新たな施設が整備されれば、大和でも魅力的な事業がさまざまに展開されると思う。

文化芸術を振興するにあたっては、3つの目的をもって施策展開することが重要である。1つ目は、イベント観光協会が中心に行っている地域文化の醸成や郷土意識の向上を図ること。2つ目は、良質な文化芸術に触れる機会を提供し、市民の豊かな感性を育むこと。3つ目は市民参加によって文化芸術を創造することである。それぞれの目的に応じて、線をつなぎ、面を創り出していくことが必要と思う。

文化芸術に関するボランティアについては、学生に働きかけを行えば集まるとは思うが、魅力的な活動がない現状では長く続けていくことは難しい。この点も新たな施設が整備されれば解決されてくると思うので、楽しみにしている。

会 長：大和駅第4地区は駅に近く、人を集めるコアの施設になれる可能性を持っている。今後もさまざまな方向から審議会で議論していきたいと思う。

(3) 大和駅東側第4地区公益施設管理運営基本計画(案)の市民意見公募の概要について
○市から、「大和駅東側第4地区公益施設管理運営基本計画(案)の市民意見公募の概要について」説明。

委 員：内容を見ると、今まで減免してたから減免しろ、料金はできるだけ安くなど施設を利用している人の都合だけと思えるような意見が多く、鑑賞者の立場としての意見が大変少ない。新たな施設では、おそらく2億、3億のランニングコストが見込まれる。施設利用者は、ある程度負担しなければならないことを覚悟しなければならない。現状を維持した制度では、すぐに施設の管理運営が苦しくなり、大きな問題となってしまいうだろう。減免は、子どもの教育のためとか福祉のためなど目的がはっきりしたものにした方が望ましい。

指定管理者制度を導入した場合、生涯学習センターや図書館の職員はどうなるのか、また、今ある施設は売却するのか、こういった財政に関わる部分が整理されていないので意見を言いにくい状況にある。

事務局：委員の言われるとおり、減免については、現状制度を維持することにはならないと思う。大和市文化芸術振興条例には、子どものための施策推進、多文化共生のための施策推進といった特徴的な条文がある。この考えは、芸術文化ホールの事業運営にも大きな影響を与えると思われる。

会 長：図書館、生涯学習センターといった既存施設との相互関係はどうなるのか。

事務局：図書館、生涯学習センターは移転という考えなので、施設が果たす役割や関係性は基本的に変わらない。

委 員：平日利用の促進を図っていくことが重要である。たとえば、ホール料金の割引を行い、演奏の録音場所として使用してもらうなどの取り組みが必要と考える。また、他の美術館から作品を借りて企画展を開催するといった事業を行うことで、大勢の人が集まり、お金がまちに落ちていくと思う。

事務局：芸術文化ホールは、良質な文化芸術の鑑賞機会と市民の活動発表の機会を提供するために整備する施設である。施設の稼働率を高めるためには、平日利用の促進を図る方策が欠かせないと考えている。また、新たなギャラリーについては、芸術家の企画展も開催できるものと考えていることから、委員ご提案の趣旨は、芸術文化ホールの詳細な事業計画を検討する中で参考にしていきたいと思う。

委 員：大和駅は、横浜、藤沢、海老名、相模大野からアクセスしやすい場所にある。ここに新たなホールができれば、利益を生み出すことも可能な施設になると思う。

会 長：意見の中に、プロムナードのイベントは、周辺住民の平穏な暮らしを阻害し、生活の安全を脅かすものなので、もっと配慮してほしいとの意見がある。今回の整備に関して、周辺住民はどう受け止めているのか。

事務局：説明会を随時行い、意見交換を行っていると聞いているが、その反応について

は把握していない。

会 長：工事はいつ開始されるのか。

事務局：現時点では、平成25年度中の予定となっている。

委 員：私は、待ちに待ったという期待感を持っているが、本当にできるのかという疑問を持っている市民はまだ多くいる。

事務局：今年10月に、市の組織の中に開設準備室を設置した。事業推進を担当する専門部署が設けられたことはこれまでなかったことであり、これを市の姿勢と捉えていただきたい。今後、どの程度のスピードで進んでいくのかは分からないが進むことは間違いない。

委 員：新しい施設は、地震などの災害が起きた時にどのような役割を果たすのか。

事務局：東日本大震災の時には、生涯学習センターホールが帰宅困難者の一時滞在施設となった。芸術文化ホールも同様の役割を担うと考えている。また、施設の中には備蓄庫も設置される予定である。

委 員：今回の施設整備計画を知らない市民が多い。市のホームページや広報だけでなく、コミセンやショッピングセンター、駅など多くの人が集まる場所で情報を発信すれば、興味のない人の目、耳に届く。もっと積極的に情報発信をしていく必要があるのではないか。

会 長：紹介ビデオはあるのか。

事務局：広報用のビデオはない。

委 員：市の施工であればすぐに公開できると思うが、今回は再開発事業であり、地権者との関係もあることから、直ちにすべてを公開することが難しいのではないかと思う。

委 員：公にすることが望ましくない時期もあると思う。

委 員：公にできるものは、積極的に発信していくべきである。市民が知らないというのが一番の問題であると考える。

事務局：しかるべきタイミングで情報を公開していきたいと思う。

(4) その他

○市から、次回の開催日程の調整を依頼し、第4回審議会は平成25年2月13日（水）午後2時に開催することが確認された。